③課題名：オリジナルリンドウの生産拡大

実施期間	令和４年～５年
担当者等	農林（水産）事務所、農業振興課、ぶちうまやまぐち推進課、花き振興センター
目標項目	県オリジナル品目の作付面積（ R3:319a→ R4：500a） オリジナル品種の株あたり出荷本数（ R3:2.5 本/株→ R4：3.5 本/株）
活用事業	園芸・薬用作物生産転換促進事業、県産花き彩り創出事業他

１　課題の背景

リンドウ（西京シリーズ）については、品質に優れ全国に誇れる品目となるよう、これまで、需要拡大、担い手の確保・育成、生産体制の強化を進め、集落営農法人や個人生産者に生産が広がっている（H26：133a→　R3:319a）。

しかし、昨年度は集落営農法人の作付け拡大は２割程度にとどまるなど、生産拡大の勢いは停滞しており、さらなる推進を図るために、まずは生産面において出荷率向上に向けた曲がり対策や初期生育の安定化等の技術対策、また、効率的な集出荷体制の確立や、計画出荷に向けた出荷予測情報の共有化等の流通対策に取り組み、集落営農法人等へのさらなる作付け誘導が必要な状況である。

２　目的及び目標

着実に作付を拡大するため、品種特性に応じた栽培技術実証、生産者・ＪＡ等、関係機関の連携による計画出荷の実現に向けた出荷体制の整備、各集落営農法人等の課題に対応したきめ細かな作付け推進等の取組を一体的に進める。

令和４年度については、適期管理を徹底するため、実証ほの設置等により栽培マニュアルを検証し、生存株率を高めるとともに、株あたり出荷本数 3.5 本/株を達成して、経営の安定化を図る。

３　Ｒ４年度活動内容（役割分担）

（１）品種特性に応じた栽培技術実証

・施肥体系等の実証ほの設置　【農業部、花き振興センター、就農・技術支援室】

・新品種「西京の瑞雲（ずいうん）」の地域適応性の把握【岩国、下関、長門、就農・技術支援室、花き振興センター】

・栽培マニュアルの見直し　【花き振興センター、就農・技術支援室】

（２）計画出荷の実現に向けた出荷体制の整備

・各産地における生育状況や出荷予測の情報共有体制の活用

【農業部、花き振興センター、就農・技術支援室、農業振興課】

・共販を核とした、関係者の連携による需給調整と新たな出荷体制の検討

【農業振興課、ぶちうまやまぐち推進課、就農・技術支援室】

（３）集落営農法人等への推進

・既存生産法人の現状把握や課題の整理による推進方法の検討

【農業部、就農・技術支援室、農業振興課】

・経営指標や推進チラシの活用による新規栽培者の確保　　【農業部、就農・技術支援室】

４　スケジュール

時期	活動内容
４～６月	・年間出荷予測の作成 ・新たな出荷体制の検討
５月 24 日	・県域調査研究課題会議・花き担当者会議 今年度活動計画、出荷予測調査方法の検討等
５～３月	・リンドウ部会研修会（出荷目合わせ等） ・共選共販試行、調査 ・実証ほ設置、調査 ・出荷予測情報による需給調整の実態把握
７月 22 日	・県域調査研究課題会議・花き担当者会議 集落営農法人等への推進状況の検討等
９月 21 日	・やまぐちオリジナルリンドウ担当者会議 栽培マニュアル、経営指標の検討等
11 月 21 日	・リンドウ部会研修会 （実証試験報告、販売実績報告、先進地視察研修報告等）

５　活動内容と今後の取組

（１）品種特性に応じた栽培技術実証

①施肥体系等の実証ほの設置

・５月の担当者会議にて、各地域での実証ほの設置を呼びかけ、事業を活用した積極的な実証ほ設置を誘導した。省力化を図るため、下関地域ではミシン目マルチを導入した実証ほを設置。すでに植穴が開いているため、これまで実施していた穴開け作業が不要となる。またミシン目が入っており、植穴の大きさを栽培途中で株の大きさに合わせて大きくすることができ、栽培１年目はこれまでより小さい直径の穴で使用できる。その結果、雑草対策の被覆資材の使用量と設置時間が削減でき、定植時の作業時間が 10a あたり 40 時間（約 20%）削減できた。美祢地域では除草剤を使用した除草体系を実証。これまではマルチと防草シートを設置し、マルチ穴については発生初期の手取り除草を指導していたが、除草剤を使用することで除草に係る作業時間を削減できた。収穫後の８月下旬に除草剤を散布したところ、10 月

下旬まで雑草の発生を抑えられた。生産者の繁忙期となる 8～10 月に抑草効果が得られたことは、生産者の負担軽減とリンドウの適切な管理につながる成果である。引き続き、リンドウの生育への影響を確認後、情報を共有していく。

・令和４年 11 月 21 日に開催した研修会にて、下関のミシン目マルチを導入した実証ほを視察し、ほ場や栽培の状況を生産者とともに確認した。また研修会では、JA 山口県や農林水産事務所の担当者から各地域の実証ほや出荷体制等の地域での取り組みの情報提供の時間をつくって共有した。

②新品種「西京の瑞雲（ずいうん）」の地域適応性の把握

・岩国、下関、長門の３地域と柳井の花き振興センターにて、令和３～４年度に栽培試験を行い、新品種の地域適応性を確認。切花は草丈 80 ㎝以上、花段数４段以上であり出荷規格を満たす品質であった。株あたり収穫本数は３～５本であり、既存品種と同程度以上を確保できた。

・令和５年１月 31 日に、山口県主要農作物・園芸作物奨励品種に決定し、令和５年度作から種苗の販売が開始される。これまでの西京シリーズにない９月頃の出荷時期と、エゾ系の花形を持つことから、やまぐちリンドウの作型拡大につながる品種として期待できる。

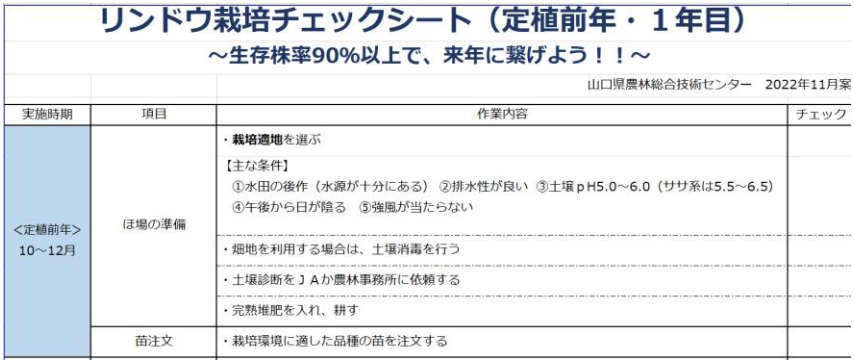
・葉枯病に強いとされるが慣行と同程度の防除は必要であり、特に他品種の出荷作業中の繁忙期での定期的な防除の徹底を図る必要がある。また、一部でササリンドウ系品種で発生しやすい未抽たい株が多くみられたが、品種に応じた栽培管理（覆土処理の深さ等）や交配組み合わせの改善等で対応できると考えられている。そこで次年度は覆土等の管理を徹底しながら、新品種の円滑な普及に取り組む。

③栽培マニュアルの見直し

・栽培マニュアルの改訂と、管理の重要項目を抜き出したチェックリストをオリジナルリンドウ推進協議会と連携して作成。研修会にて、生産者と関係機関に共有した。チェックリストは各地域で改訂可能とし、地域での活用を推進する。

・適期管理を徹底し、生存株数 90%や株あたり出荷本数 3.5 本など、目標数を明記して、経営安定化に必要な栽培条件の意識づけを図った。

チェックリスト



リンドウ栽培チェックシート（定植前年・１年目）

～生存株率90%以上で、来年に繋げよう！！～

山口県農林総合技術センター　2022年11月案

実施時期	項目	作業内容	チェック
<定植前年> 10～12月	ほ場の準備	・**栽培適地**を選ぶ 【主な条件】 ①水田の後作（水源が十分にある） ②排水性が良い ③土壌ｐH5.0～6.0（ササ系は5.5～6.5） ④午後から日が陰る　⑤強風が当たらない	
		・畑地を利用する場合は、土壌消毒を行う	
		・土壌診断をＪＡか農林事務所に依頼する	
		・完熟堆肥を入れ、耕す	
	苗注文	・栽培環境に適した品種の苗を注文する	

チェックリスト（一部抜粋）

（２）計画出荷の実現に向けた出荷体制の整備

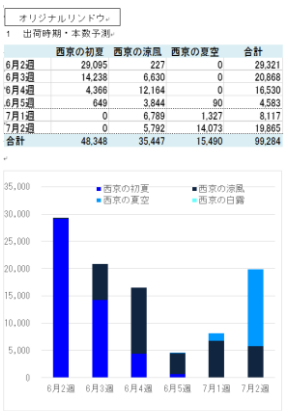
①各産地における生育状況や出荷予測の情報共有体制の活用

・農業部からの報告を基にオリジナル花き情報を作成し、出荷がある期間は、月２回（10 日頃と 25 日頃）の間隔で継続して発信。

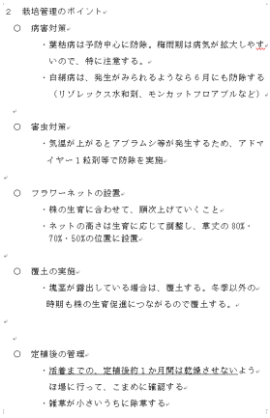
・花き情報では、約 1.5 か月先の出荷予測と栽培管理のポイントを関係者で共有。ファイルは、Microsoft　teams を活用して花き担当者がそれぞれ更新した。JA 山口県を中心に計画的な出荷が可能な体制づくりを進め、安定販売につながる体制を整備。また、時期ごとに必要な管理の周知や、各地域の栽培状況の比較などの情報交換も行い、他地域の情報を入手しやすい体制とした。

・実績と予測との誤差が花市場より指摘されており、次年度は予測システムの更新による予測精度の向上を図ることとしている。

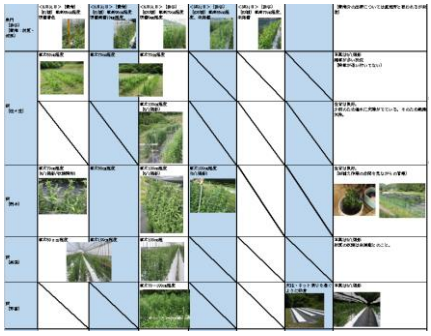
・栽培管理の共有等により、令和４年度の西京シリーズの株あたり出荷本数は前年の 2.5 本から 3.1 本に増加した。目標とした 3.5 本/株までは至らなかったため、引き続き、適期管理の徹底等により、株あたり出荷本数の向上に取り組みたい。ただ、本数には地域差や品種間差があるため、さらなる出荷率向上に向けては、生産者ごとの出荷状況の分析が必要と考えられる。



出荷予測



栽培管理のポイント



各地域の生育状況

②共販を核とした、関係者の連携による需給調整と新たな出荷体制の検討

・令和４年度は、共選共販体制を、農事組合法人ほんごうファーム（美祢市）に委託して実施。運営期間は、（農）ほんごうファームの出荷時期に合わせて令和４年６月 17 日から８月９日の週２回（火・金曜日）計 16 回実施した。

・調製料（14 円/本）の負担、集荷体制の整備不足等の要因により、共販への出荷は美祢地域と下関地域に限られた。一方で、美祢地域では共選共販体制を栽培計画に組み込んでいる法人もあるため、早めの体制整備が必要となる。

（３）集落営農法人等への推進

①既存生産法人の現状把握や課題の整理による推進方法の検討

・法人の現状把握と課題整理は今後の課題となる。リンドウ栽培に取り組んだが栽培をやめた法人も出てきているため、課題とともに推進対象の整理など、推進体制を検討する。

②経営指標や推進チラシの活用による新規栽培者の確保

・品種の組み合わせにより、出荷時期を５～７月に短期集中させる作型と、５～10 月まで長期出荷をする作型とを例示。労力競合を避けてリンドウ栽培に取り組むことができることを示す等、推進材料を整えた。リンドウ栽培の推進ポイントを明確にして、栽培を呼びかけていく。